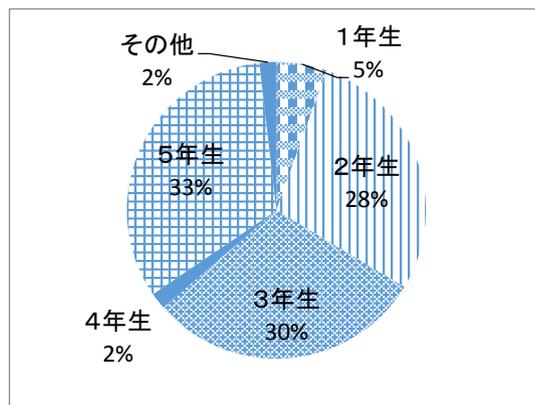


森っこプロジェクト 「環境教育フィールド活用状況調査」 (小学校)

回答数 学校 41校(55校) 回答率74.5%

有効データ数 110件 (1校当たり、2.6枚)



1. 今年度の授業や行事で公園や森など野外で活動を行いましたか？ または行う予定がありますか？

はい 103 件

いいえ 6 件

2. どこでどんな活動を行いましたか？ または行う予定がありますか？ (内容は複数回答アリ)

遠足	回答数(学年)	(遊具やボール遊び)	(動植物の観察)	その他
常盤公園	10	9	5	
カムイの杜	2	2	1	
神楽岡公園	5	2	1	炊事 5
旭山動物園	2		2	
春光台公園	7	6	2	
嵐山公園	1	1	1	登山
キトウシ森林公園	3	3		散策
付近の公園や河川敷	47	43	4	
(計)	77	(推定される交通手段 徒歩47、バス利用32)		

生活科	回答数(学年)	(遊具やボール遊び)	(動植物の観察)	その他
常盤公園	1			施設見学
カムイの杜	2	1	2	
神楽岡公園	1		1	
旭山動物園	4	1	4	
付近の公園や河川敷	29	6	20	収穫体験 3
(神社・突哨山・男山自然公園・個人の農園、水田を含む)				
(計)	37	(推定される交通手段 徒歩31、バス利用6)		

総合学習	回答数(学年)	(遊具やボール遊び)	(動植物の観察)	その他
常盤公園	1		1	
嵐山公園	2		1	マップリーディング
神楽岡公園	5		4	水質調査
春光台公園	1		1	
突哨山	2		2	
地域の農園、水田	6			収穫体験 6
付近の公園や河川敷	10		7	清掃活動 3
(計)	27	(推定される交通手段 徒歩24、バス利用3)		

理科	回答数(学年)	(遊具やボール遊び)	(動植物の観察)	その他
付近の公園や私有地	3		3	
学校近くの神社、河川敷	5			川の流れ、水の働き 2 昆虫採取 3
付近の水田	2		2	田植え
(計)	10			

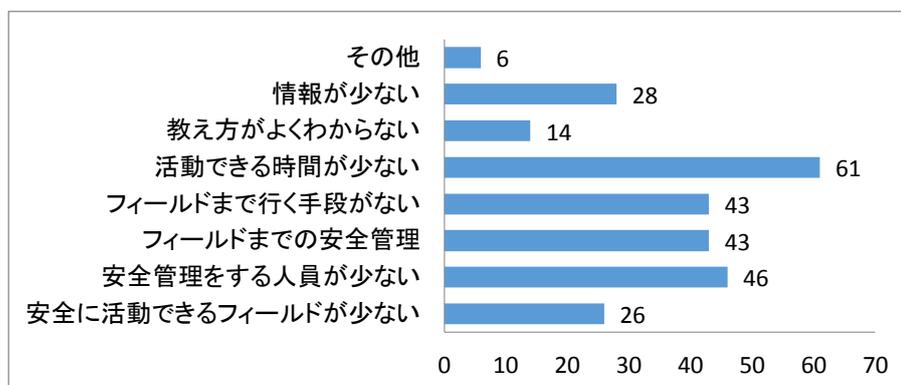
上記以外の科目での野外学習

宿泊学習で市外へ行っている	4
社会科で地域の調べ学習をしている	6
その他、行事や写生などの活動を野外で行っている	6

3. 今年度の環境学習(自然系)で、公園や森などでの野外活動以外に具体的にどのような学習を行いましたか？

教室でプリント等による川や水生生物の学習	33 件
校庭での樹木の調査	27 件
学校での草花・野菜の栽培、観察	93 件
その他	魚釣り、写真撮影、ツイート 落ち葉拾い、昆虫採取、おたまじゃくしの飼育 昆虫調べ、モンシロチョウの卵、幼虫の採取 コオロギの飼育 教室で昆虫飼育 校地内での巣箱かけ、観察 カヌー体験 陰と太陽(理科) 北海道の動物について調べ学習、新聞にまとめる 野外活動のまとめ(新聞づくり) インターネットでの調べ活動 ネットを使った調べ学習

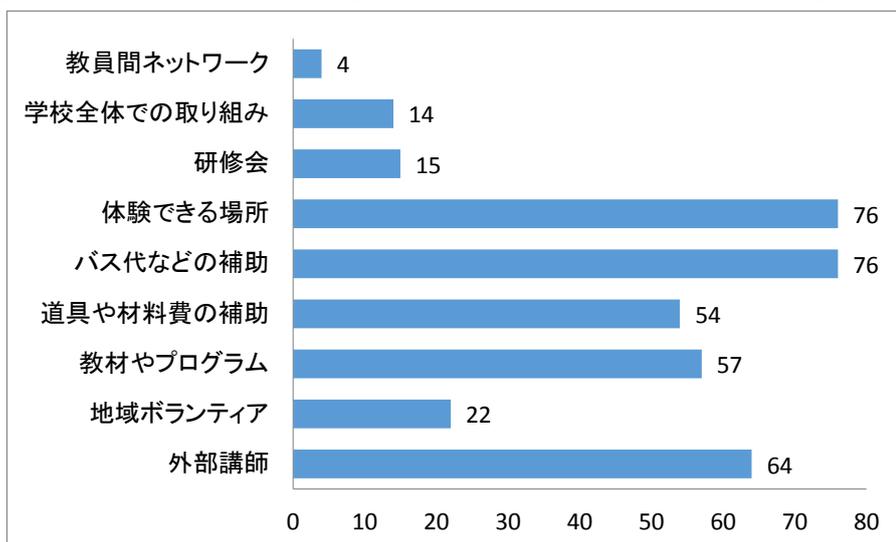
4. 野外活動をする際に課題と思うことは何ですか？(複数可)



その他

- 木の実が少ない
- 近くの公園に、どんぐりがあるといい、虫もあまりいない
- 小動物、昆虫類の観察が難しい
- 時間がかかる
- フィールドへ行くための予算

5. 環境教育を進めていくために必要なのは次のどれだと思いますか？(複数可)



※環境教育を進めるために最も重要だと思うことは何ですか？

(時間・人・費用・場所 — ハード面の整備、支援)

- 体験する時間の確保
- 安全確保
- バス代など必要経費の補助
- 実施するための場所
- 学校の校庭に様々な植物や自然環境があるとよい
- 適した場と物品(調査に使う、飼育で使うもの)
- 教材開発の時間の確保
- 教育資源等の提供、確保
- 進める手立てだと思います。経費・人員・時間などを含めた総合的な手立て

(情報、教材、プログラム、外部講師 — 外部からくるもの)

- 教科に合った教材やプログラム(地域の特色に合わせて)
- 確かな、新しい情報
- 専門的知識をもつ外部講師による教材やプログラム

(先生が、学校が — 教える側の要素)

- 教師や外部講師が専門的な知識を持つこと。
- 教員が自然に対して興味関心を高め、積極的に取り組むこと。
- 環境や安全管理に対する知識と教員自身の体験
- 教える側の事前調査
- 教科の学習に効果的につながりかつ自分たちの未来について考えられるような指導計画
- 学校全体としての取り組み

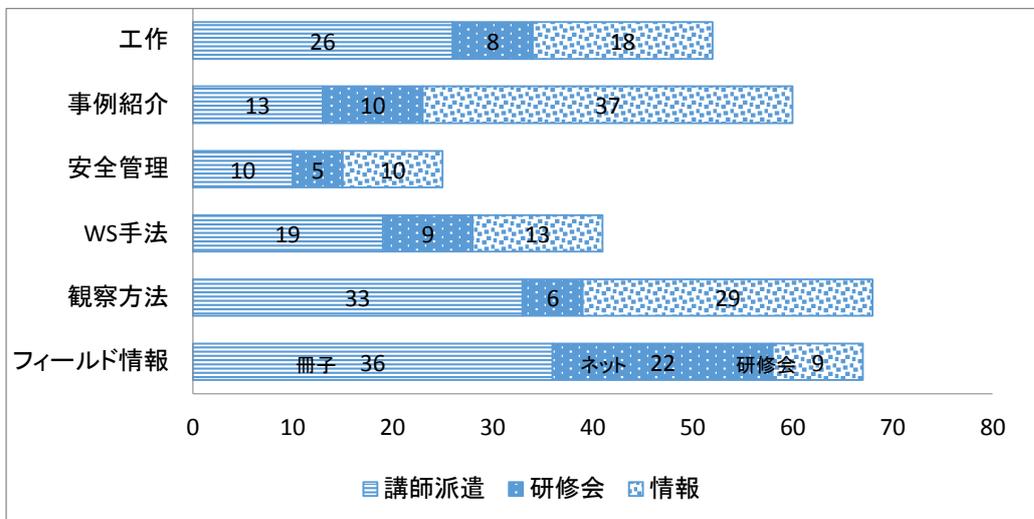
(その他 — 環境教育とは何？)

- 体験的学習、切実感をもたせること
- 児童に環境を守ることの大切さや必要性を感じてもらうこと
- 知識を実感させること
- 身近なものごとを見ようとする気持ちを育てること
- 身近な自然を生かすこと
- 難しいことを教えるのではなく、身近な自然にかかわって自然の良さや大切さを感じさせること。
- 自然を守り育てることが次の世代につながるという意識づけ
- 環境教育というものの範囲が広すぎて何をしたいのかわかりません。
- カリキュラムの中の位置づけ

6.「環境アドバイザー派遣制度」を知っていますか？

知らない	64	人
知っている	36	人
利用したことがある	4	人

7. 野外での環境教育を支援するために、講師派遣や情報提供を依頼してみたいと思うのは、次のどれでしょうか？(複数可)



8. 学習指導要領にある、各学年の環境教育カリキュラムについて、実施するに当たって課題と思うことは何ですか？

(時間・人・費用・場所・情報 — 外的要因)

活動時間

野外活動できる時期が限られていること(行事などのからみもある)

準備等の時間

安全管理や安全確保する人

専門性を持った指導者(外部講師)

移動するための費用

移動手段

予算(交通費以外の)

学習にふさわしい環境(公園・森・フィールドなど)

人材や指導のニーズに合ったフィールドの情報

利用できる制度についての周知

環境教育カリキュラムについての情報が不足している

虫、生き物が教科書や図鑑にのっているものがない。アレルギー(動植物)への配慮

継続的に活動することで、高まりが見られる活動にしていかなければならないと思うが、難しい。

(先生が — 先生のスキル)

専門的な知識が不足している

指導者の不勉強により、何をどうしていいのかかわからず、手つかずであることが多い

生活科の授業において環境(自然など)がピンとこない児童もいるので、低学年での環境教育には難しさを感じる。

教科書や教材ビデオ等の学習のみであり、地域の環境保全についての学習を深めることが難しいこと。

(学校が、カリキュラムが、 — 環境教育の位置づけ)

学校全体として系統だった体系的な取り組み。

それぞれの学校の実態(地域性、児童の様子など)に合ったカリキュラムを作成すること。

環境教育とは何かということについての共通理解

地域にあったカリキュラムの整備、教科との関連

どの教科のどの単元でどんなことができるのか、という情報が少ない

指導要領のカリキュラムの言っていることは十分理解できるが、現実的に学校の環境、地域性、予算、学校独自の教育課程等、様々な実態があり、なかなか実施することが容易ではないことが多い。「どうやって行くの?」「いつ行くの?」「時数はどうするの?」「指導体制は?」などたくさん問題を現場で抱えています。

学習指導要領では、環境教育は各教科の内容に含むものとして表記されており、総合・特別活動以外に重点的に取り組める時間がない。また、各教科においてもそれぞれの教科の目標が第一であって、環境教育を意図とした学習活動を進めることは難しい。

自らの生活と結びつけて考えることはできたとしても、それを日常生活の中で実践していくようにさせること。

学校周辺によい場所がない場合、交通手段、費用、安全への配慮等の問題があり、指導要領にあるから実施するということに簡単にはいきません。現場への負担も考えて指導要領を作成していただきたいです。

9. 最後に、森や自然、環境教育全般に関することについて、ご意見ご要望などあれば記載してください。

(意見)

実際にふれる、見る等の体験型学習機会をいかに増やすかが大事だと思います。

以前、環境アドバイザーの方に来ていただき指導を手伝ってもらったことがありました。知識や情報を子供たちに伝えていただく活動が今後も続くといいと思います。

身近な範疇が広いことと、人によって環境教育のとらえ方がまるで違うので一歩踏み出しやすいカリキュラムを考えられるとよいと思います。

危機管理や安全確保の問題が常につきまとっている。

年間を見通して地域に合わせた取り組みができればと思います。

環境教育⇒森や自然の保護⇒人の生き方(ぜひここまでたどり着く教育にしたいです)

環境教育を行うにあたり、学校の環境が整っていない。

(要望)

今の子供たちは自然に触れる機会が少なく、虫を見ても怖がる子が増えたように感じます。できるだけ自然に触れる機会を多くし、たくさんの経験をさせてあげたいのですが、経費、安全面、場所の問題で思うようにいきません。もし、可能であればご支援いただきそれらの負担を何とか減らしていただければと思います。

実際に森の中にでかけ、講師の先生のお話などをゆっくり聞く機会があれば身近にある木や花、虫にもっと興味を持つことができると思います。

外に出るだけでなく、DVDや本などから学ぶことも多いと思われる。そういう資料も必要。

旭川市には自由に(原状回復が前提)穴を掘ったり、火を使用できる公園がほとんどない。木登りができない子が増えている。

環境アドバイザー派遣制度をぜひ活用したいです。